



「ただいま!」とみんなが、 放課後に集まる場所 学童保育

お父さんもお母さんもはたらいている家庭はたくさんあります。そんな家庭の子どもたちを学校が終わったあとあずかってくれるのが、学童保育です。

子どもたちと、お父さん、お母さんのための学童保育



子どもたちが来るまでに、学習する算数の計算問題をつくり、じゅんびをします。

学校の宿題と日記を書いたら、全員そろって学習時間。道徳、英語、算数、音読、発表などがあります。

東京都江戸川区に「トゥモローキッズスクール」という学童保育があります。ここを開いた只友大介さんに、どうして学童保育をはじめたのか、聞いてみました。

「学童保育をはじめる前、わたしは会社員をしていて、わたしの奥さんもはたらいていました。しかし、子どもが小学生になるころ、放課後に子どもをあずけられる学童保育が見つからずこまったのです。お父さん、お母さんたちの仕事はいろいろあります。子どもをむかえに行く時間は仕事によって早い人もいますが、わたしたちはむかえに行ける時間が夜の8時になってしまうこともありました。」

只友さんが住んでいるまちの学童保育は夕方6時までしかあずけられなかったのです。

「わたしと同じようになやんでいるお父さん、お母

さんがたくさんいました。それならば、理想の学童保育を自分でつくろうと思いました」と只友さん。

お父さん、お母さんが安心して仕事ができるように、いちばん長くて夜の10時まで子どもたちをあずかります。少しはなれた学校から通う子どもたちもあずかっています。



トゥモローキッズスクールの只友大介さん



只友さんは、子どもたちの質問に答えられるように本を読んで勉強しています。

自分で考え、つたえるように

トゥモローキッズスクールでは、今日気づいたことや知ったことを日記に書きます。

「日記に、楽しかったと書いてあれば、『なんで楽しいと思ったの?』、図書室で本を読んだと書いてあれば、『どうしてその本をえらんだの?』と質問をして、子どもたちにその理由を考えてもらいます。自分で考えて、つたえる力を小学生から身につけてほしいと思っているからです」と、只友さん。

ほかに、テレビにうつし出された物語の文章を声に出して読む音読をしたり、人の話の聞き方や、電車やバスに乗るときのルールなども学んだりします。

「日記も音読も、くらしの中で守らなくてはいけないルールも、毎日のくり返しによって身につきます。だから、毎日来る学童保育でもしっかり教えていきたいです。」



日記に書いている内容を見ながら、「どうしてうれしかったの?」「なんでそうしたの?」と質問しています。

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を音読している小学校1年生の男の子。



家の人にかわって家事をする会社をつくった人が、自分の会社の仕事について話してくれています。

まちの人や仕事のことを知る

トゥモローキッズスクールにはいろいろな人たちが話をしに来ます。仕事などでいそがしい人にかわって、家のそうじや買い物、料理などの家事をする人を紹介する会社をつくった人、子どものころ小児ガンだった人、小児ガンの子どもを育てている人などです。

「学校では学べないこともたくさん知ってほしいです。最後に子どもたちが質問したり、どう思ったのか発表してもらいます。子どもたちが自分から、それはおもしろそう、たいへんそう、自分だったらこうするなど、気づいたり、考えるきっかけになってほしいと思っています」と、只友さん。

まちのおとなたちが子どもを見守る「すくすくスクール」

東京都江戸川区では、放課後の学校で、市の職員やまちのボランティアの人が子どもを見守る「すくすくスクール」という取り組みをしています。学童保育は、入れる人数や学年が決まっていることが多いですが、すくすくスクールは、入りたい人はみんな入ることができます。

ボランティアの丸山さんは「子どもたちが元気でいてくれることが、一番のやりがいです。イベントを通じて、子どもと地元のおとなが交流できるのもいいところです。まちで子どもを見かけると、すぐわかるので、防犯にも役立っています」と、話してくれました。



ボランティアですくすくスクールをささえる丸山博久さん。



すくすくスクールでは、放課後の学校の校庭や体育館、が、そのまま使われます。